

アンケート「高齢者にお話を聴く」から得た現代の高齢者像

田岡 洋子・村岡 洋子

Statistic Images of Elders Based on Interviews by Students

要旨 学生による高齢者へのインタビューを通して、その生活の現状とこれまでの生活の歴史と考え方を調査した。インタビューをした高齢者は比較的健康で、現在の生活に満足している。約30%の人が現在でも仕事をしている。これまでの仕事歴は男性が専業、女性がパートとはっきり分かれているが、80%の人は女性が仕事をもつことはよいことだと考えている。介護の体験は女性が多いが、男性も28%は介護経験者である。介護して心に残った印象は、ただ辛いばかりでなく、介護・生・死についてさまざまな感慨を得ている。自分の老後に関しては男性がつれあい、女性が娘とはっきりと別れており、介護をしてもらう場所としては男女とも自宅がよいと回答している。この点ではともに全国的調査と同様の典型的なパターンではあるが、病院より老人ホームの方が高くなったり、家族以外の社会的介護が望ましいと思う人はともに19%前後とかなり高い値を示すなど、新しい傾向も垣間見られる。老人ホームはあまり好ましいとは思っていないが、それでも30%の人が見学に行ったり、行きたいと思っている。質問をした学生達には大切な仕事だから頑張ってとか、君なら大丈夫と温かい励ましをいただいております、高齢者とじっくり話し合うのは初めての経験という学生達はそれぞれに感銘を受けている。

キーワード 介護福祉士、高齢者像、生活歴、福祉観、聞き取り調査

はじめに

我々がこのアンケート調査を実施した一番の目標は、高校を出たばかりの若い世代に、まず、高齢者と接してもらうこと、話しをすること— 特に丁寧に話を聞き必要な事項を逃さないように質問して答えを得ることである。さらにそのことで、高齢者のこれまでの長い生活の歴史を引き出し、その重さと多様さを認識することである。

介護職に必要な資質は、人に対する優しさや思いやりの心、或いは溺れるものを見て思わず手を差し伸べるボランティア精神等といわれる。しかし、介護の専門職として最も大切なことは、まず、福祉の対象者である目前の高齢者の現状— 障害の程度や病歴、ADLの状況等を正確に把握すると同時に、一人の長い人生を生き抜いて来た人間として、さらにその上に立ってどのような人格を形成し考え方を持っているかをできるだけ心を空しくして受け止め、理解し、それに対して尊敬の念を持てるようになることである。

身体的な介護が必要になった人を介護の形や量で捕らえる前に“これまでと同じように”という継続の原理や“その人らしく”というノーマライゼーションの思想を介護に活かしていくためにはこの要素を欠くことはできない。

したがってこの“聞き書き”によるアンケートはこれまでの生活歴に視点の一つをおいてかなり詳しく、その時点で対象者がどのような気持を持ったかを、次いで、それぞれの老後の生活や介護に関しての希望や考え方をかなり執拗に追い掛けている。自分が、介護福祉士の資格を目指していること、将来介護の仕事につきたいと思っていることもきちんと伝えた上で、答えたく無いことには無理に回答を求めないように指示して行わせた。

回答者の中には、そのため、介護職の卵を育てるような気分になられて、丁寧に答えてくれた人、励ましてくれた人もあったようである。現在の若者は、自分と世代の異なる人に殆ど興味を持たず、接する機会も少ない。したがってその効果の程はいささか心許無いが、それでも、というかそれだけになお、これだけの対話をするだけで彼等が得た体験は、一種のカルチャーショックといえるものであり、高齢者を一人のだれとも同じでない生活者として捕らえるのに役だったと考えている。これは、また、施設介護実習の際に、対象とする利用者とのコミュニケーションを取るための予行演習としても役立つであろうと思われる。

I. 対象者の属性

1. 年 齢

学生には、充分注意したはずだが、年齢分布の中に65歳以下の人が63人（18％）存在する。これを省くかどうかは課題だが、一応加えることにした。

最も多い年齢範囲はいわゆる前期高齢者と言われる65～74（160人、44％）、次いで75歳以上の134人、37％である。

表1 回答者の年齢

年 齢	人 数	%
64歳以下	63	17.5
65～74	160	44.4
75歳以上	134	37.2
不 明	3	0.8
計	360	100

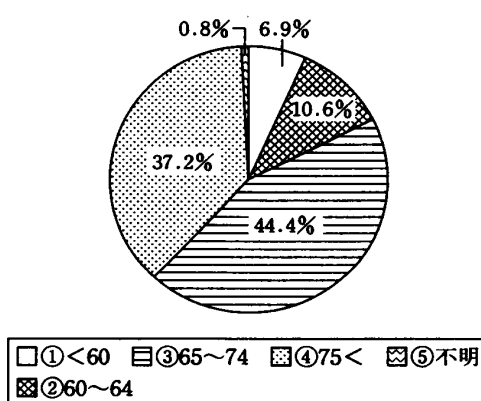


図1 回答者の年齢

2. 性別及び性別年齢

回答者の性別及び性別年齢は以下の通りである。

表2 回答者の性別

性別	人数	%
男性	116	32.2
女性	238	66.1
不明	6	1.7
計	360	100

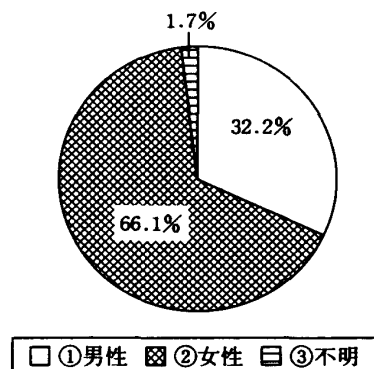


図2 回答者の性別

表3 回答者の性別年齢

年齢	男性		女性	
	人数	%	人数	%
59歳以下	9	7.8	15	6.3
60～64歳	9	7.8	29	12.2
65～74歳	46	39.7	111	46.6
75歳以上	52	44.8	80	33.6
不明	0	0	3	1.3
計	116	100	238	100

*性別不明が6名あり、以下男女別の分析は354名について行っている。

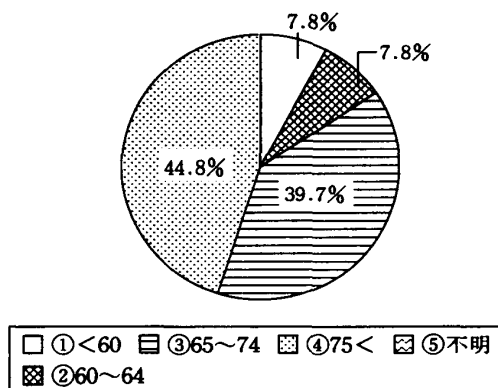


図3 回答者の性別年齢(男性)

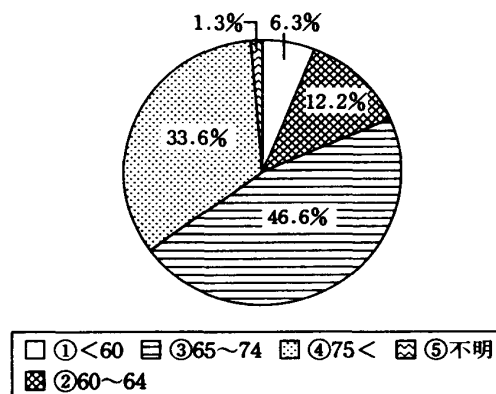


図4 回答者の性別年齢(女性)

3. 回答者の出身地

表4 回答者の出身地

府県名	人数	%	府県名	人数	%	府県名	人数	%
京都府	147	41.9	奈良県	7	2.0	山口県	2	0.6
兵庫県	55	15.7	静岡県	6	1.7	富山県	2	0.6
三重県	21	6.0	岡山県	6	1.7	鹿児島県	2	0.6
大阪府	13	3.7	広島県	6	1.7	香川県	2	0.6
鳥取県	11	3.1	石川県	4	1.1	群馬県	2	0.6
島根県	10	2.8	新潟県	4	1.1	長崎県	1	0.3
滋賀県	10	2.8	長野県	3	0.9	宮崎県	1	0.3
和歌山県	9	2.6	愛媛県	3	0.9	沖縄県	1	0.3
徳島県	9	2.6	岐阜県	3	0.9	高知県	1	0.3
福井県	7	2.0	愛知県	2	0.6	千葉県	1	0.3

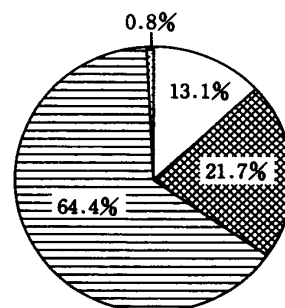
（出身地不明 9）

回答者の出身地は2府28県に亘っている。アンケートを採る時期が主として夏休みとなっているので、学生の出身地で採られているケースが多い。

4. 現在の家族構成

表5 回答者の家族構成

家族構成	人数	%
一人住まい	47	13.1
夫婦のみ	78	21.7
他と同居	232	64.4
不 明	3	0.8
計	360	100



□ ①一人住まい 図 ②夫婦のみ 日 ③他と同居 図 ④不明

図5 回答者の家族構成

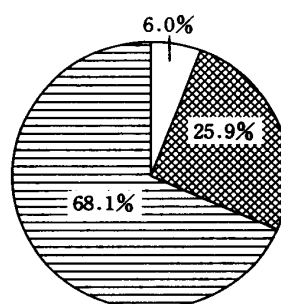
この調査では、一人住まい13.1%、夫婦のみ21.7%、他と同居64.4%、不明0.8%となっている。

全国平均の、一人住まい13.2%、夫婦のみ32.3%（一方が65歳以下を含む）、子供と同居50.3%、その他2.3%（国民生活基礎調査 1998年）に比較すると、地方出身者を中心にアンケートがとられたためか、回答者の中に65歳以下の人（18%）が存在することを考慮にいれても（年齢層が若くなるほど夫婦のみの確率はむしろ多くなると考えられる）夫婦のみが少なく、その分子供との同居が多い。

家族構成は男性と女性で大きく異なっていると考えられるので、性別の家族構成を採ってみました。結果は以下に示すようである。

表 6 回答者の家族構成（男性）

家族構成	人 数	%
一人住まい	7	6.0
夫婦のみ	30	25.9
他と同居	79	68.1
不 明	0	0
計	116	100

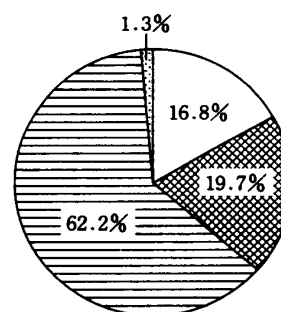


□ ①一人住まい ②夫婦のみ ③他と同居 ④不明

図 6 回答者の家族構成（男性）

表 7 回答者の家族構成（女性）

家族構成	人 数	%
一人住まい	40	16.8
夫婦のみ	47	19.7
他と同居	148	62.2
不 明	3	1.3
計	238	100



□ ①一人住まい ②夫婦のみ ③他と同居 ④不明

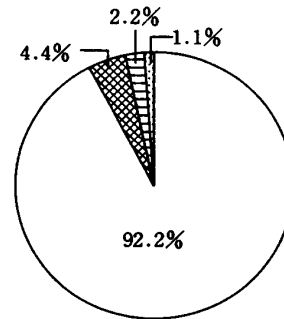
図 7 回答者の家族構成（女性）

表 6、図 6、表 7、図 7 によると、一人住まいの男性は 6.0% であり、女性の 16.8% と比較して、大幅に少なく、一人暮らしの 85% が女性である。平均寿命の差と年齢差から、夫婦の場合は、夫の死によって妻が一人残るケースも多い。また、男性が一人になった場合は、生活が難しくなり、他と同居という住い方に移行するケースが多いためと考えられる。

5. 現在の居住形式

表8 回答者の居住形式

住 居 形 式	人 数	%
一戸建て	332	92.2
集合住宅	16	4.4
そ の 他	8	2.2
(内訳)二世帯住宅	(2)	(0.6)
市営住宅	(2)	(0.6)
長屋建て	(2)	(0.6)
ケアハウス(老人ホーム)	(1)	(0.3)
不 明	4	1.1
計	360	100



□①一戸建て ②集合住宅 ③その他 ④不明

図7 回答者の居住形式

この調査は、持家か賃貸かは調査していない。学生が聞きにくいと考えたからである。

一戸建てに住んでいる人が多いことは日本の特徴だが、ここでもより一層はっきり表われている。

このような居住形式をとっている人々に、今、ここに住んでどう思うかを聞いた結果は、以下のものであった。

良 い

長く住んでいるので住めば都	18	賑やかで楽しい	3
生れたところだから	1	便利(駅が近い(1)、買い物がしやすい(1))	8
人間関係がよい(人情が厚い、友人が多い、	13	家族が近くにいます	1
近所の人と親しい、新しい友人ができた)		一人で気楽	3
住みやすい	33	年寄り向きでよい	3
居心地がよい	5	自宅だから良いも悪いもない	1
良いところだ	86*1	少し気を使っている	1
環境がよい	5*2	変わらない	2
自然が美しい(美しいが不便(1)を含む)	8	まあまあ よくも悪くもない	10
しっくり、おだやか	2	平穏無事	1
落ち着く	3	以前より良くなった	1
最 高	4	わからない	1
幸 せ	9	ふつう	6
快 適	6	家が新しく、周囲がもとのままなので幸せ	1
満 足	17	静かで環境がよいが田畑があるのが負担	1
楽しい	2		
家が一番	2		

*1 雨が多く 夏は暑いがいよい所、スーパーが移転してしまって不便になったが…を含む

*2 気候がよい、空気がきれい、車が通らない 等を含む

よくない

あばら家である	1	一軒家からアパートへ（つき合いが少ししんどい）	1
一度他の所へ出てみたい	1	前の家の方がよかった	1
住みにくい	1	特にない	1
近所の人の干渉が嫌	1	わからない	1
不便(役所が遠い、田舎である、街から遠い など)	1	不明、記述なし	102

合計 368

* このうち、8例は、1人が2つを挙げているのを、それぞれの所に算入しているので合計368となっている。

6. 体 調

現在の体調について質問をした結果を表9に示す。

表9 回答者の体調

1. 全体の調子		
良 好	健康、元気、最高、快調等を含む	214
普 通	まあまあ、ぼちぼち、胃の手術をしたので食生活に苦心(1)、肥満を含む	58
よくない	すごく悪い(1)、悪い(12)、あまりよくない(18)、疲れる(2)、老化が進む(1)、寒さがこたえる(1)、家事にさしつかえが起る(1)を含む	36
2. 痛みがある		
足	膝(5)、足痛はあるが元気(2)を含む	17
足 腰	他は健康(2)、歩くのが困難(1)、安静にしている(1)、腰が曲る(1)を含む、腰痛(13)	24
あちこち	肩痛(1)、肩こり(3)、肢関節(2)、股関節(1)、リウマチ(2)を含む	15
3. 目、耳		
耳	難聴	2
目	白内障(1)、見えにくくなった(2)	3
4. 病気がある		
	胃潰瘍(1)、風邪(2)、血圧(4)(高い3、低い1)、糖尿病(3)、ペースメーカー使用(1)、骨粗鬆症(1)、脳梗塞(2)(右半身不自由1)、リウマチ(2)、病後(1)、通院中(2)、一病息災(1)、腕脱臼(1)	20
5. 重複して症状を訴えた例		
	白内障・腕脱臼・リウマチ、高血圧・足が悪い・肥満、高血圧・目まい・肩こり、膝痛・高血圧・胃潰瘍、目・耳・疲れやすい、膝痛・目が見えにくい(重複の訴えはそれぞれの項に加算している)	
記入なし		11

* 2種以上の症状を訴えた人のケースを各項に加えたため人数の合計は360人以上(400)になる。

高齢になると、いくつもの症状を併発することが多いが、このアンケートの回答者は、一般に元気である。全体的に年齢が若いこと、街中に居住している話し易い高齢者を対象にしていること、学生が高齢者の健康状態について十分な知識と理解を持っておらず十分に聞き出せていないこと等によると考えられる。

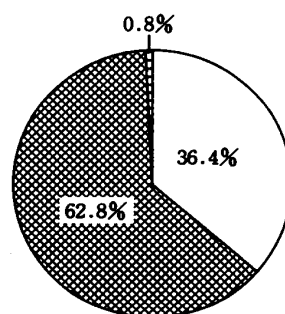
II. 回答者の仕事について

1. 現在の仕事

現在、仕事を持っている回答者は以下のようなものである。

表10 現在仕事をもっている人

仕 事	人 数	%
有 り	131	36.4
無 し	226	62.8
不 明	3	0.8
計	360	100



□ ①有 り 図 ②無 し 白 ③不 明

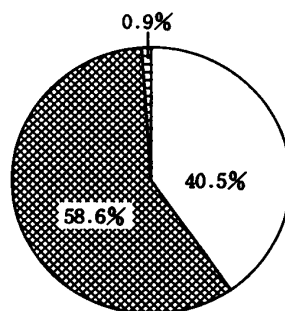
図9 現在仕事をもっている人

現在でも、36%の人が仕事をもって働いている。

これを性別に見ると、男性については表11、図10、女性については表12、図11に示すようである。

表11 現在仕事をもっている男性

仕 事	人 数	%
有 り	47	40.5
無 し	68	58.6
不 明	1	0.9
計	116	100

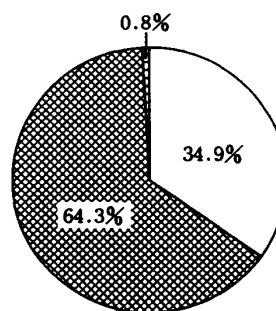


□ ①有 り 図 ②無 し 白 ③不 明

図10 現在仕事をもっている男性

表12 現在仕事をもっている女性

仕 事	人 数	%
有 り	83	34.9
無 し	153	64.3
不 明	2	0.8
計	238	100



□ ①有り ②無し ③不明

図11 現在仕事をもっている女性

回答者が高齢であるため、現在働いている人は、男性の方が6ポイント程多いが、それほどの男女差はない。

2. これまでの働き方

これまでの働き方を表13、図12に示す。

表13-1 これまでの働き方

働き方	人 数	%
パート	53	14.7
専 業	111	30.8
家 業	128	35.6
その他	66	18.3
不 明	18	5.0
計	376	104.4

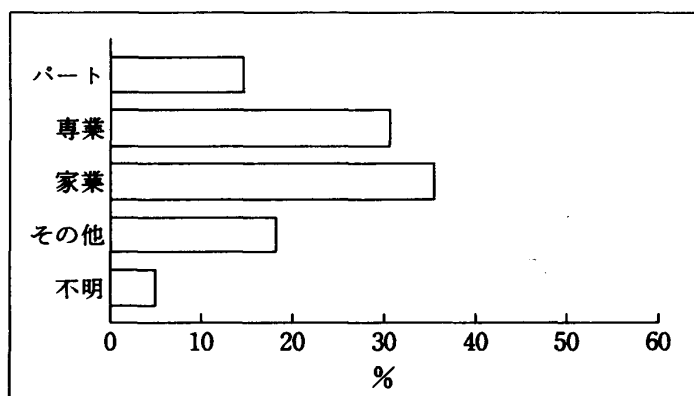


図12 これまでの働き方

働き方の中の「その他」には、表13-2のようなものが含まれている。この中には、当然「専業」に含まれるべきものもあるが、今回の統計には含んでおらず、改めて検討したい。

表13-2 働き方「その他」の内訳（66人中の主なもの）

公務員	3	看護婦	1	主婦	8
教員	1	電話交換手	1	会社役員（常勤）	1
銀行員	1	内職（和裁仕立を含む）	8	重要物資配給所	1
軍人	1	お稽古事（琴）の先生	1	自営業	1
小学校の用務員	1				
農業（教員1、製飴業・養鶏1を含む）	9				
計					38

地域性から、「家業」が多いのが特徴である。

働き方の性別を、表14、図13、表15、図14に示す。

表14 これまでの働き方（男性）

働き方	人数	%
パート	2	1.7
専業	60	51.7
家業	40	34.5
その他	16	13.8
不明	1	0.9
計	119	102.6

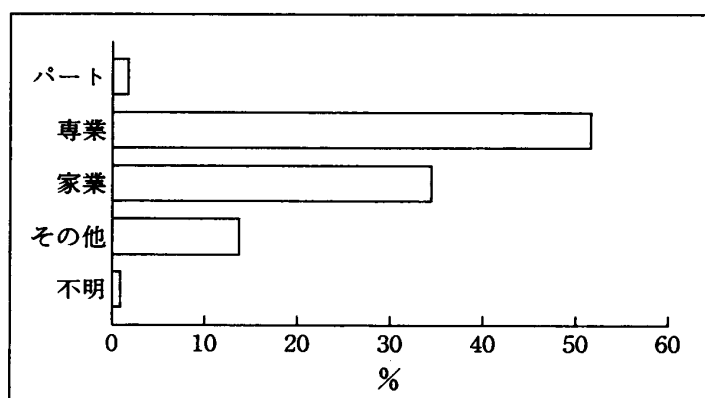


図13 これまでの働き方(男性)

表15 これまでの働き方（女性）

働き方	人数	%
パート	51	21.4
専業	50	21.0
家業	87	36.6
その他	50	21.0
不明	13	5.5
計	251	105.5

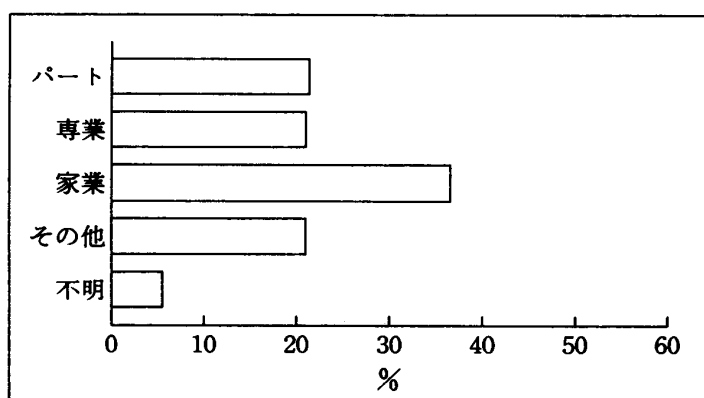


図14 これまでの働き方(女性)

働き方は、当然のことながら、女性の約21.4%を占めるパートタイマーは、男性には殆どなく、専業は男性51.7%：女性21.0%と、男性は女性の約2.5倍である。家業はともに約36%である。

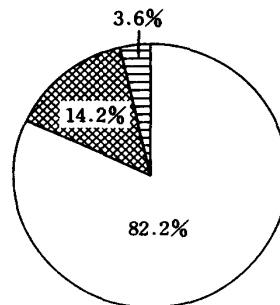
質問としては、現在の働き方とこれまでの働き方をはっきり分けて問うべきであった。そのため現在の仕事と過去の仕事が、質問の拙さにより、はっきり区別できていない回答も含まれていると考えられる。

3. 女性が仕事を持つことについて

回答者に女性が仕事を持つことについて質問した。結果を、表16と図15に、さらに性別を、男性について表17と図16に、女性について表18と図17に示した。

表16 女性が仕事をもつことをどう思うか

女性が仕事をもつ	人 数	%
よ い	296	82.2
よくない	51	14.2
不 明	13	3.6
計	360	100

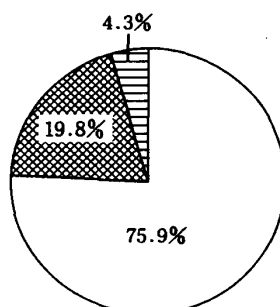


□①よい ②よくない ③不明

図15 女性が仕事をもつことをどう思うか

表17 女性が仕事をもつことをどう思うか(男性)

女性が仕事をもつ	人 数	%
よ い	88	75.9
よくない	23	19.8
不 明	5	4.3
計	116	100

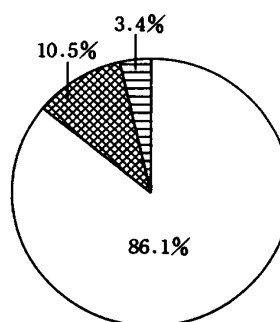


□①よい ②よくない ③不明

図16 女性が仕事をもつことをどう思うか(男性)

表18 女性が仕事をもつことをどう思うか(女性)

女性が仕事をもつ	人 数	%
よ い	205	86.1
よくない	25	10.5
不 明	8	3.4
計	238	100



□①よい 図②よくない 日③不明

図17 女性が仕事をもつことをどう思うか(女性)

女性が仕事をもつことについては、全体の82%が良いことだと回答している。農業や家業では女性が働くことはすでに当然であったし、女性が働くことについては、理解が得られていると考えられる。

しかし、性別を見ると、女性205人（86.1%）が男性88人（75.9%）より、10ポイント多い。

このアンケートでは、さらに、①女性が働けるように何か手助けをしたか、②自分が働くために、何か手助けをしてもらったか、③女性が働くためにどんな援助が必要と思うか、をたずねて、興味ある回答を得ているが、ここでは扱わない。

Ⅲ．家庭での役割について

1. 家庭で果している役割について

現在行っている家庭での役割を項目別にたずねてみた。項目については、洗濯が入っていなかったの、その他の所で指摘をした人が13人あった。その他、設けておいた方がよかったのは「庭の手入れ」「子供をあずかる」である。

結果を、表19、図18に示す。

表19 家庭での役割について
(複数回答)

家庭での役割	人 数	%
食事の支度	138	38.3
掃 除	150	41.7
風呂沸かし	128	35.6
買 い 物	107	29.7
そ の 他	140	38.9
不 明	23	6.4
計	686	190.6

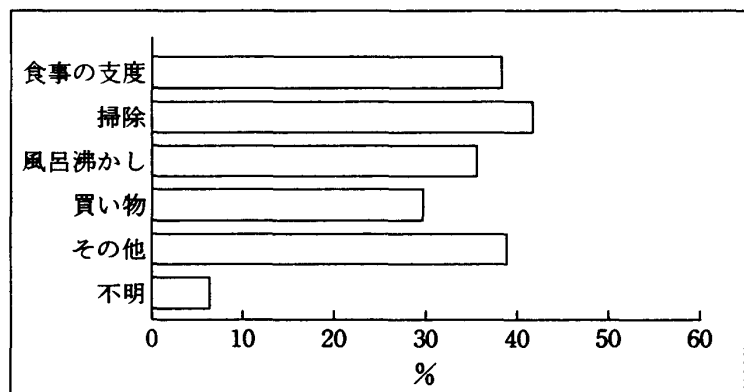


図18 家庭での役割について
(複数回答)

その他の内訳の主なものは次のようになっている。

家事全般 (全部、一般、すべて等)	38
農作業 (畑仕事、野菜作り等)	26
洗濯 (洗濯物干し・たたみ等を含む)	13
庭仕事 (庭の手入れ、草引き等を含む)	6
留 守 番	5
ごみ捨て、ごみ出し	3
子守り、孫の世話	3

家庭での役割の、男女別を表20、図19と表21、図20に示す。

表20 家庭での役割について(男性)
(複数回答)

家庭での役割	人 数	%
食事の支度	11	9.5
掃 除	13	11.2
風呂沸かし	27	23.3
買 い 物	16	13.8
そ の 他	51	43.9
不 明	14	12.1
計	132	113.8

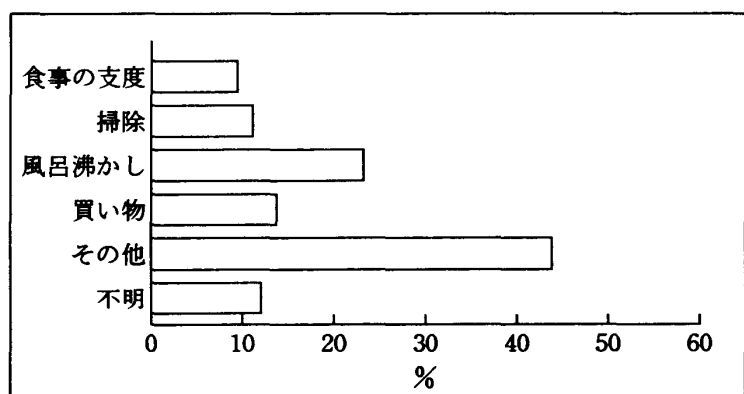


図19 家庭での役割について(男性)
(複数回答)

表21 家庭での役割について（女性）
（複数回答）

家庭での役割	人 数	%
食事の支度	125	52.5
掃 除	133	55.9
風呂沸かし	98	41.2
買 い 物	88	37.0
そ の 他	87	36.6
不 明	9	3.8
計	540	227.0

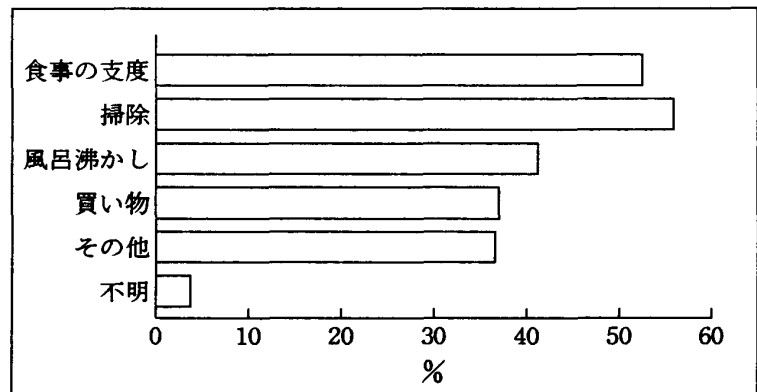


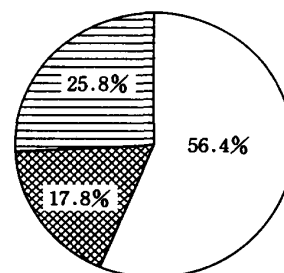
図20 家庭での役割について（女性）
（複数回答）

2. 家庭での役割に生き甲斐を感じているか

家庭での上記の役割に生き甲斐を持っているか、およびその性別の統計は以下のようなものである。

表22 家庭での役割に生き甲斐はあるか（全体）

生き甲斐	人 数	%
有 り	203	56.4
無 し	64	17.8
不 明	93	25.8
計	360	100

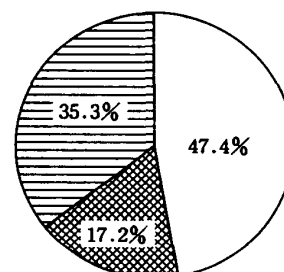


□ ①有り ②無し ③不明

図21 家庭での役割に生き甲斐はあるか（全体）

表23 家庭での役割に生き甲斐はあるか（男性）

生き甲斐	人 数	%
有 り	55	47.4
無 し	20	17.2
不 明	41	35.3
計	116	100

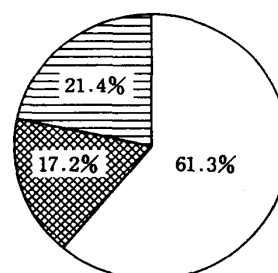


□ ①有り ②無し ③不明

図22 家庭での役割に生き甲斐はあるか（男性）

表24 家庭での役割に生き甲斐はあるか（女性）

生き甲斐	人 数	%
有 り	146	61.3
無 し	41	17.2
不 明	51	21.4
計	238	100



□ ①有り 図 ②無し 日 ③不明

図23 家庭での役割に生き甲斐はあるか(女性)

家庭での役割に生き甲斐を感じているのは、女性146人（61.3%）に対し男性55人（47.4%）と、女性の方が多いが、役割を受け持っている男性も半数近くは、生き甲斐を持っていることがわかる。

3. 家事で得意なことは何か

この設問は、学生に、回答者の得意な家事を聞き、そこから、たとえば、料理なら何を、どんな風に作るのか、という風に話を進めていき、誰にも、何か、得意なものがあつたということを知ることを目的として設けた。どんな話ができただろうか。

得意な家事を、多い順に挙げていくと、次のようである。

料理、調理、食事作り、炊事 等 （煮物、寿司、魚料理、卵焼き等も含む）	104
掃除 等	27
洗濯 等	17
畑仕事、野菜作り、家庭菜園 等	9
裁縫、和裁、編み物、洋裁、ミシン 等	8
漬物	8
庭いじり、盆栽、植木の剪定、草むしり 等	7
家事全般、全部、すべて、何でも 等	20

また、特殊なものを、拾い出してみると

機械の管理・買物品の選択・対外的交渉、力仕事、日曜大工、手先の細かい仕事、パン作り、魚をさばくこと、キャベツの千切り、里芋の煮っころがし、おせち料理、餃子作り、食事の片付け等

また、何もない、全部苦手、食べることという回答もあつた。

IV. 趣味について

趣味に関しても、現在の趣味、若い頃の趣味、中年の趣味をたずねている。また、できなかったが、したいと思っていること、これからしようと思っていることも、併せて質問している。

回答者の趣味の移り変わり、現在と違って、特に女性は、趣味をもつことなど簡単には許されなかったであろうし、それでもやってみたいと思っていること等から、その人の生活歴と思いを知り、話がうまく進むのではないかと考えている。

1. 現在の趣味

数の多いものを挙げると以下のようである。

ゲートボール	26	盆 裁	11
編み物	25	裁縫、和裁、着物作り	11
園芸（花育て、花作り、庭木いじり、 植木、ガーデニング 等を含む）	24	囲 碁	9
カラオケ	18	散歩、ウォーキング	9
習字、書道	16	詩 吟	9
野菜作り、畑仕事 など	15	手 芸	8
魚釣り	13	人と話をする、おしゃべり	8
		（趣味なし、特になし	62）

上記以外の趣味としては、

議論、クイズ番組を見る、手品・アイディア商品を考える、オーケストラを聴く、中国語、ラジコン、単車でドライブ、美容院へ行く、片付け、掃除等があった。

2. できなかったが、してみたかったこと

この質問は楽しかった、という学生が多い。いろいろ話していくうちに、初めは、ないといっていた人が、そーや、これがやりたかった、ということになる。回答の中には、なりたかった職業も入っているようである。

してみたかったこと

旅行（国内旅行、海外旅行を含めて）	37	サラリーマン	1
習字、書道	19	女学校に行く	1
英語、英会話	4	結婚式をする	1
車の免許、車の運転	4	スチュワーデス	1
楽器演奏（ピアノ（4）、バイオリン、 サックス、アコーディオンバンド 等）	7	看護婦	1
コンピュータ、パソコン、ワープロ	3	家を建てる	1
外で働くこと、働きに出る	3	恋がしたい	3
		（なし、特になし	122）

ピアノ、バイオリン、サックス、アコーディオンバンドなど、音楽を自分でやってみたいという希望は、現実には手は届かなかったが、憧れていたのではないか。

コンピュータや自動車の運転、英会話など、現代に必要なものを習得したいという気持ちが現れている。

家を建てる、海外旅行なども、かなりの費用が必要なことから、簡単には実現できなかったであろうが、実現したいという気持ちがあることがわかる。

女学校に行く、結婚式をしたい、恋がしたい、外で働きたい、等という回答は、したいこともさせてもらえなかった、当時の女性の生活をよく表していて、少し悲しい思いがする。

女性にとって、やはり生きやすい時代になっているのであろうか。

3. 趣味の場、人との交流

趣味の場として、趣味の会に入ろうという人は、1/3程度でそれ程多くはない。

表25 趣味の会に入ろうと思うか

趣味の会に入る	人 数	%
は い	117	32.5
い い え	222	61.7
そ の 他	37	10.3
不 明	5	1.4
計	381	105.9

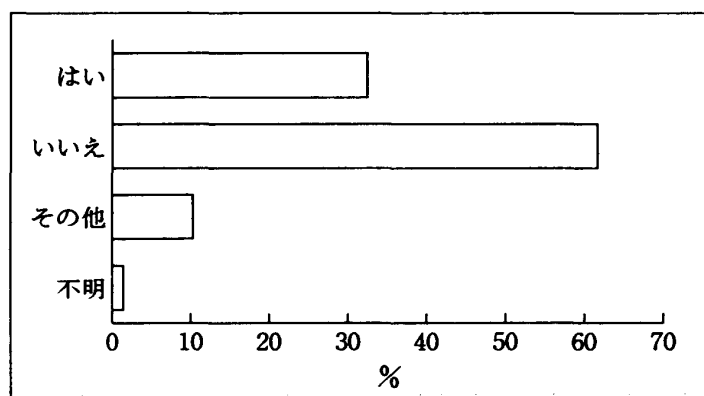


図24 趣味の会に入ろうと思うか

また、交流の場も特に望んではないない。

表26 望む交流の場

望む交流の場	人 数	%
公 開 講 座	56	15.6
趣 味 の 会	139	38.6
福祉センター	52	14.4
そ の 他	88	24.4
不 明	34	9.4
計	369	102.4

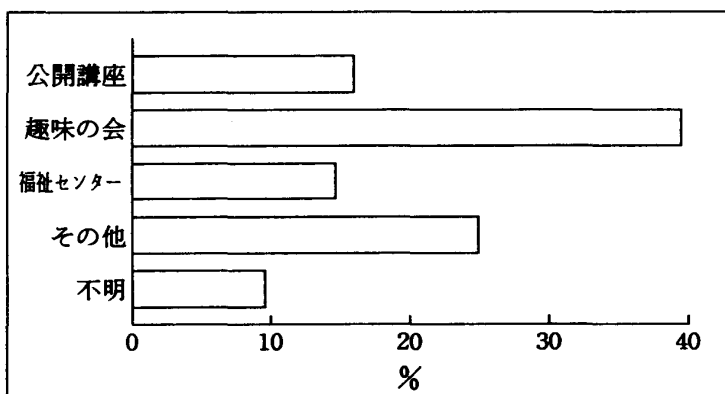


図25 望む交流の場

しかし、人との交流は、96.1%の人が「良い」と答えている。本人が元気な間は、自分で交流の場を開拓していつているのだろう。

9．介護について

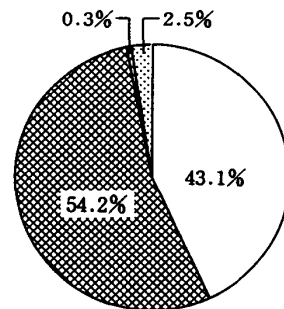
1．介護の体験

1) 介護体験はあるか

介護の体験の有無並びに体験の性別を求めた。表27、28、29および図26、27、28に示す。

表27 介護体験の有無

老人介護の体験	人 数	%
有 り	155	43.1
無 し	195	54.2
そ の 他	1	0.3
不 明	9	2.5
計	360	100

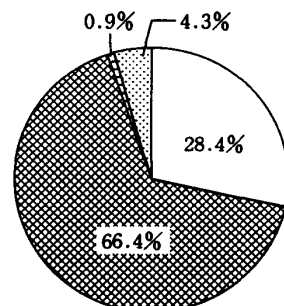


□ ①有り ㊦ ②無し ㊨ ③他 ㊩ ④不明

図26 介護体験の有無

表28 介護体験の有無（男性）

老人介護の体験	人 数	%
有 り	33	28.4
無 し	77	66.4
そ の 他	1	0.9
不 明	5	4.3
計	116	100

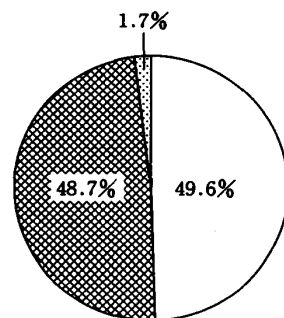


□ ①有り ㊦ ②無し ㊨ ③他 ㊩ ④不明

図27 介護体験の有無(男性)

表29 介護体験の有無（女性）

老人介護の体験	人 数	%
有 り	118	49.6
無 し	116	48.7
そ の 他	0	0
不 明	4	1.7
計	238	100



□ ①有り ㊦ ②無し ㊨ ③他 ㊩ ④不明

図28 介護体験の有無(女性)

「有り」が43%、「無し」が54%と、有りの人は半数以下であるが、性別に見ると、女性がちょうど1/2 (49.6%)、男性が28.4%と、予想できることだが、女性が多い。

75歳以上の高齢者においては、その父母の最期の看取りはしても、病気で亡くなる人の割合が高く、長期間の寝たきりや痴呆の人を介護するいわゆる「老人介護」は、あまり多くはないと思われる。今回の質問については、その区別はしていない。同世代の介護になると、長期にわたるいわゆる「老人介護」が多くなってくるとと思われる。

しかし、在宅介護の充実等が進めば、在宅での介護は、少しずつ公的（あるいは商業ベースの）介護と家族介護が共存する形をとり、これまでの「老人介護」とは少し異なってくるものと考えられる。したがって、老人介護の調査は、より複雑になってくるとと思われる。

2) 誰を介護したか

誰を介護したかの回答をまとめると、表30のようになる。

表30 誰を介護したか

介 護 し た 人				
つれあい		兄弟、親戚		
夫	24	姉	4	
妻	6	兄	1	
親		親戚の人	1	
親とのみ記入	8	その他		
父母とのみ記入	8	他人（盲目の人に朗読1を含む）	4	
父とのみ記入	0	病気の人	1	
母とのみ記入	28	友人	2	
夫の親とのみ記入	2	施設長として	1	
夫の父（義父を含む）	9	ヘルパーとして	1	
夫の母（姑、義母を含む）	34	多くの老人を	1	
自分の父	12	2人の介護をした人 （姉・姑、義父母（2）、実父母（1））	5	
自分の母	7			
養父母	1	3人以上の介護をした人 （夫の祖母・夫の父母・実母）	1	
嫁の親	1			
祖父母				
祖父とのみ記入	4			
祖母とのみ記入	9			
夫の祖母	1			

父母、父、母とのみ記入しているのは、夫の親と自分の親とが混合していると思われる。そのことも考え合わせると、やはり夫の親、とくに姑の介護が多かったことがわかる。夫の父が少ないのは、主たる介護者が姑であったためであろう。自分の父がゼロで

あるのも、自分の母が主たる介護者であったためと、この世代では、息子のつれ合い（嫁）が介護をしているケースが多いと思われる。

最近では、少子化の傾向もあって、妻の実父母の介護のケースも増えて来ている。当然のことともいえるが、新しい介護の負担が増え、家族介護の限界を明瞭に表す原因ともなったと考えられる。

3) 介護していて特にしんどかったこと

介護していて、特にしんどかったことを聞いて、以下のようにまとめた。

- (1) 一般的な回答としては、「とにかく大変だった」2、「すべてがしんどかった」「若くて、丈夫だからできた」2、「相手を愛していたから」1、「息子や孫が協力してくれたから」1、「すんだことだから」1、「付き添いを雇ったから」1、「特にない」28、等があった。
- (2) 介護される人の症状としては、「寝たきり」3、「半身不随」1、「発作をたびたび」1、「しんどそうである」「重度の介護が必要」各1
- (3) 具体的にどんな介護がしんどかったか、「移送」8（自分に力がない 2）、「入浴・清潔にする」18（風呂場まで運ぶのが重かった 1）、「排泄」28（おむつ交換 25、便のにおい 1、たびたびトイレに行くので 1、夜中のトイレ 1）、「食事」2（やわらかいものをつくること 1、食べさせること 1）、「外出」1（目が見えなかったから）、「洗濯」4（特に冬には 2、洗濯機もなかった 1）、「ふとんの交換」1、「散歩」1、「床ずれ」1、「手足をさする」「背中をさする」2（特に夜に痛む 1）、「病院通い」6（付き添って通院 3、入院先へ介護者が通う 1）、「吸入」1、「介護用品が不便だったから」1
- (4) 介護側の事情で、「一度に2人の介護をしたので」2、「子供に手がかかるのと同じ時だった」2、「遠くから通って介護したから」2（泊りがけで通った 1）、「お金がずいぶんかかった」1、「家業があったので」2
- (5) 介護のために、介護者の受けたしんどさとして、「自分が外出できない」3、「勤めとの両立が大変だった」3、「病気になってもやらなくてはならなかった」1、「腰が痛い」1、「高齢だから」1、「睡眠不足」15、「疲れた」1、「精神的に苦しい」3、「介護する側も気を使った」3、「誰も手伝ってくれないのが辛かった」1

4) 介護していて印象に残ったこと

(1) プラスイメージの印象

この質問の回答には、前項の“しんどかったこと”と重複する部分もあるが、介護

する側として様々な印象を受けとっていることが分かる。

- ① まず一般的な印象として、「介護をしてよかった」3、「長い人生経験だった」1、「自分で看られてよかった」2、「やりがいがあった」2、「介護は大切なことだと思った」1、「全部が印象深いことだった」2（大切な思い出 1）、「いろいろあって…」1、「特にない」等が挙げられている。
- ② また、介護される人の態度も、する側に、深い印象として残っている。
「感謝の言葉があった」（ありがとう、すまんね）9、「背中をさすっていたら手を合わせていた」1、「いろいろ気を使ってくれた」2（うちわであおいでいたら、扇風機でよいから、といってくれた 1、なるべく手をかけないように、自分でしようとしていた 1）
- ③ 介護される人の様子から、「おとなしい人だった」1、「される側も辛いのだと思った」3（夜、こっそり泣いていた 1、相手も自分も辛いのだと思った 1）、「食べさせているとき、幸せそうな顔をしていた」1、と介護される人の気持を思っている。さらに、「私もがんばったが、悔いが残った」4（もっとちゃんとしてあげればよかった 1、家に帰りたいと、よく泣いていた 1）、「少しずつやつれていくので無力感が残った」1、等と少々悔いる思いが残されている人もいる。
- ④ 介護する側の態度として、「できるだけ明るく接した」1、「やさしく接すると症状がよくなるような気がした」1、「何より健康が大事と思った」2、「自宅で看てあげてよかった」2、「話ができるのと、できないのとはずいぶん違うと思った」1、「自分の老後が心配になった」5、等を挙げている。
- ⑤ また、「あたり前のことをしただけ」1、「命の大切さを知った」3、「人間は面白い」1、等の感想をもっている人がいる。
- ⑥ 人生の最期の看取りは、やはり深く心に残るようである。「夫の最期を看取ったこと」3（最後の言葉が印象に残った 1、葬式のとき悲しかった 1）
- ⑦ 家族の協力は、介護する人にとって、介護の苦痛を減少させ、評価してもらうことで元気になれる、という点で、とても大切なことであり、介護には限界があるとはいえ、家族の心を結びつける結果を産むこともある。「姉とよくわかり合えた」1、「息子や孫の協力があり辛くなかった」2
- ⑧ 「お金がすごくかかった」2。以前は、保健でまかなえる医療が現在より少なく、福祉施策も充分でなかったため、介護の費用が高額であったことも見逃せない。
- ⑨ その他、「はじめは棒をふりまわして拒否されたが、何度も行っているうちに、馴れてくれた」1、というのはヘルパーさんの感想であり、「医者がだめだと言ったのに、ガンの夫がもちなおした」1、「寝たきりから起き上がれるようになった」1、

「この頃の人には、いろいろな支援があつてよくなった」という感想もある。「介護しながら、読み方のアクセントを教えてもらった」「よい人生勉強になった」は、意味がよくわからないが、介護される人から、何かを教えてもらったということか。

(2) マイナスイメージの印象

- ① 一方、つらかったと重なる部分として、「しんどかった」1、「大変だった」5、「長い間だったので」2、「体力が必要だ」2、「限界がある」1、「わからない」1、が挙げられている。介護の条件として、「辛抱」2、「体力」5、「忍耐」2。さらに、介護の実際として、「入浴」2（毎日入れられてよかったこと 1）、「排泄」（重たい人だった、おむつ交換 3）、「体位転換」2、「痛がったのでさすり続けた」2、「相手が苦しんでいてもどうしようもなかった」1
- ② 相手の様子で、マイナスの印象として、「なぐられて、今も傷跡がある」1、「わがままばかりいう」1、と思った。
- ③ 痴呆の介護では、「息子の顔がわからなくなった」1、「物忘れがひどいのが嫌だった」1、「ろう便」1、「夜徘徊」1、「近所に迷惑をかけた」1、「子供のようだった」1
- ④ 「家族、特に夫の協力がほしかった」1、1人で何もかもするのが苦しい、という思いは、介護をする人にとって大きな問題である。
- ⑤ 介護の体験の中で初めてで驚いたこととして、「床ずれができて驚いた」2、「寝たきりだったので畳が腐っていた」1、等も寄せられている。
- ⑥ その他、「老人ホームに入れてほっとした」1、「旅行に行きたいと言うので準備をすると、いざ行くとなると行く気にならない等」と言い出すので、腹がたった」1

2. 自分の老後の介護について

1) 自分の被介護時の住まい — どこで介護を受けたいか

自分が要介護になったとき、どこで介護を受けたいかをたずねた。結果は表31、図29に示すようである。

表31 自分の被介護時の住まい

被介護時の住まい	人 数	%
自 宅	234	65.0
子 供 の 家	40	11.1
病 院	23	6.4
老 人 ホ ー ム	57	15.8
そ の 他	10	2.8
不 明	9	2.5
計	373	103.6

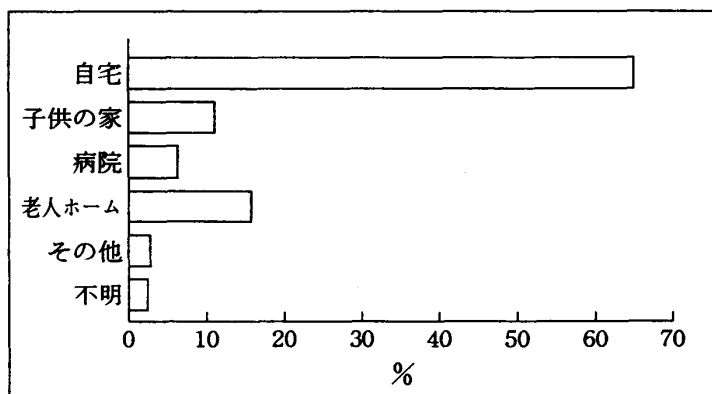


図29 自分の被介護時の住まい

自宅が65.0%と最も多いが、病院の6.4%、子供の家の11.1%より、老人ホームの15.8%の方が多いいのは、少し以前の統計からは、逆転している傾向である。後に述べるように、老人ホームのイメージはあまり良くないし、見学しようという関心もあまりないが、子供の家で介護してもらうことの可能性が少ないことは、かなり認識されているし、子供の世話になりたくない、という意識も、一般的になってきていると、いえるであろう。

総務庁長官官房高齢社会対策室の「高齢者の健康に関する意識調査」（平成9年）によると、介護を受けたいところとして、

自 宅	47.8%	福 祉 施 設	9.5%
子 供 の 家	6.6	老 健	6.2
親 族 の 家	0.4	病 院 な ど	19.4

となっており、病院が、施設と老健の和よりも大きくなっている。施設より病院へ、というのは、これまではごく一般的な傾向であったが、デラックスな病院がたくさんある都会とちがって、我々地方都市では病院はあまり居心地よいところではないのであろう。

2) 介護してほしい人

誰に介護をして欲しいか、をたずね、その性別を求めた。結果を表32、図30、男性のデータを表33、図31に、女性のデータを表34、図32に示す。

表32 介護をしてほしい人（全体）

介護してほしい人	人 数	%
つれあい	95	26.4
息 子	61	16.9
嫁	69	19.2
娘	122	33.9
ヘルパー	26	7.2
介 護 士	48	13.3
看 護 婦	20	5.6
そ の 他	42	11.7
不 明	6	1.7
計	489	135.9

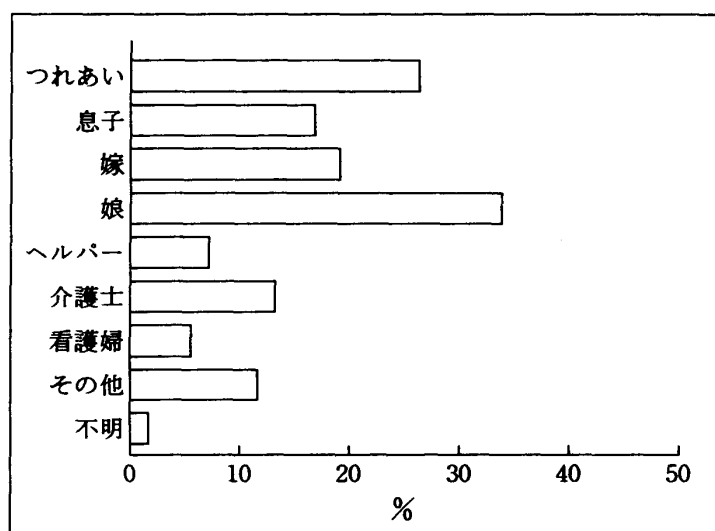


図30 介護をしてほしい人(全体)

表33 介護をしてほしい人（男性）

介護してほしい人	人 数	%
つれあい	57	49.1
息 子	13	11.2
嫁	9	7.8
娘	31	26.7
ヘルパー	8	6.9
介護士	11	9.5
看護婦	8	6.9
そ の 他	11	9.5
不 明	1	0.9
計	149	128.5

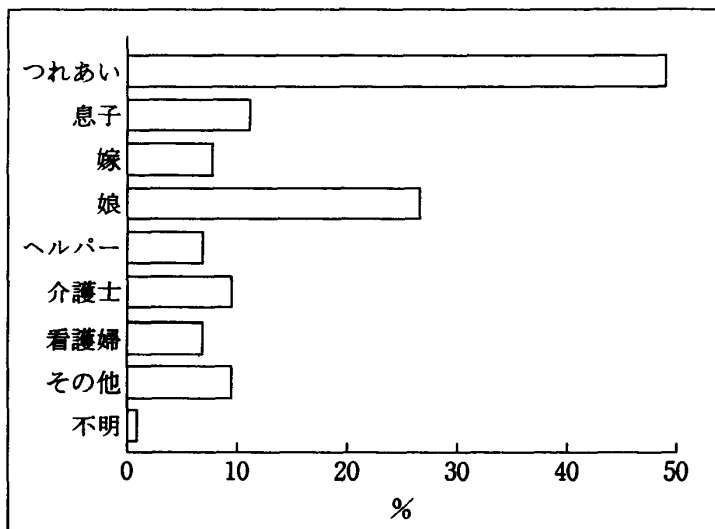


図31 介護をしてほしい人(男性)

表34 介護をしてほしい人（女性）

介護してほしい人	人 数	%
つれあい	38	16.0
息 子	46	19.3
嫁	58	24.4
娘	89	37.4
ヘルパー	18	7.6
介護士	37	15.5
看護婦	11	4.6
そ の 他	30	12.6
不 明	4	1.7
計	331	139.1

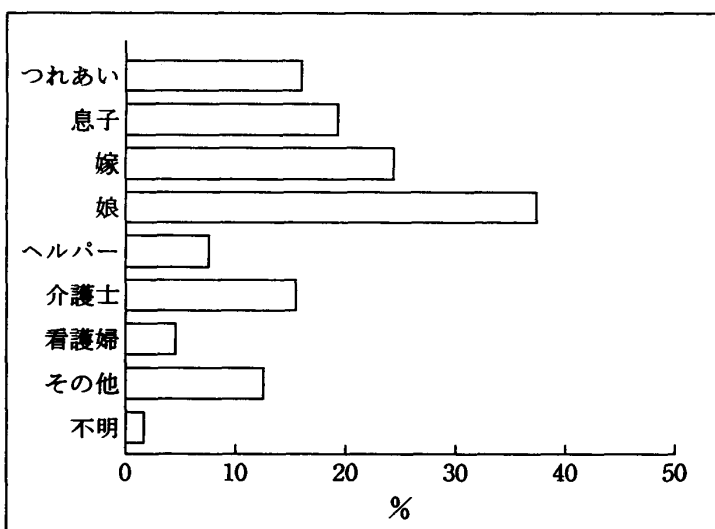


図32 介護をしてほしい人(女性)

全体で、最も高い数字は娘122人（33.9%）であり、次いで、つれあい95人（26.4%）となっており、嫁の数値が69人（19.2%）で少ない。嫁の介護が常識であった時代から見ると、大きな変化である。しかし、その結果、「家」の考えがまだ残っていた時代の「嫁」が娘に入れ替っただけと考えることもできる。その一方、ヘルパー、介護士（介護福祉士を含む）、看護婦等、家族以外の介護を求める人も、94人（26.1%）と、つれあいに次いで多い。

しかし、この傾向は、性別によって大きく異なってくる。

男性では、何といっても、つれあいが57人（49.1%）と、家族中の過半数を占め、次いで、娘31人（26.7%）、息子13人（11.2%）、嫁9人（7.8%）となる。家族以外の人では合計27人（23.3%）である。つれあい、娘に次いで高位を占めるのは、話相手が介護福祉士の卵だからであろうか。一般には、ヘルパーはマスコミに度々とりあげられ、ヘルパー養成講座ばかりで、耳にする機会が多いが、介護福祉士は、殆ど知らないのが実情である。男性で、介護職がこれだけ上位を占めるのは、珍しい。

女性の結果では、やはり、娘が89人（37.4%）で最高であり、次いで、嫁が高位を占める58人（24.4%）。次いで息子46人（19.3%）が続ぎ、つれあいは38人（16.0%）にすぎない。男性の平均寿命が短いことと夫婦の年齢差から、夫がいないか、或いは、介護をあてにできないと思っているためであろう。

介護職に期待する人は66人（27.7%）と、ここでも、娘に次いで高い値を示している。

男性は、女性にくらべて、つれあいが多く、社会的介護の占める割合が少ないのが一般の傾向であるが、この調査では、僅か4.4ポイントの差である。いずれにしても介護福祉士の認識が高くなって行くことは、望ましい。

しかし、「その他」を拾い上げてみると、表35に示すように「家族」が26人を占める。

表35 「介護をしてほしい人」に対する回答の「その他」の内容

介護してほしい人	人数	介護してほしい人	人数	介護してほしい人	人数
家族（家族皆で2を含む）	12	してくれるなら誰でも	6	絶対世話にならない	2
孫（ひ孫1を含む）	12	わからない	4	呆けないようにする	1
自分の子供	1	その時による	2		
息子夫婦	1	あんたが介護福祉士になったら、あんたでよい	1		

絶対に人の世話になりたくない、とがんばる人もいるし、してくれるならだれでも、わからない、その時による、といった回答もある。本当は、それが実情なのかも知れない。あんたが介護福祉士になったら、あんたでもよい、等と、質問者を好意的にからかっている人もいた。

3. 老人ホームについて

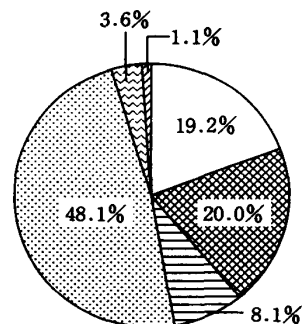
1) 老人ホームのイメージ

将来の介護に関して、老人ホームをどのように思っているか、老人ホームのイメージを問うた。さらに、性別の数字を求めた。

結果を表36、図33に、男性のデータを表37、図34、女性のデータを表38、図35に示す。

表36 老人ホームのイメージ（全体）

ホームのイメージ	人 数	%
よ い	69	19.2
ややよい	72	20.0
悪 い	29	8.1
わからない	173	48.1
そ の 他	13	3.6
不 明	4	1.1
計	360	100

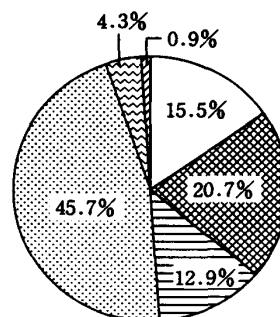


□①よい ▨③悪い ▩⑤他 ▤⑥不明
 ▨②ややよい ▩④わからない

図33 老人ホームのイメージ(全体)

表37 老人ホームのイメージ（男性）

ホームのイメージ	人 数	%
よ い	18	15.5
ややよい	24	20.7
悪 い	15	12.9
わからない	53	45.7
そ の 他	5	4.3
不 明	1	0.9
計	116	100

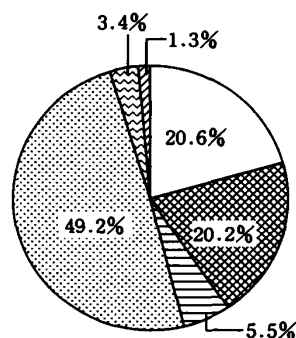


□①よい ▨③悪い ▩⑤他 ▤⑥不明
 ▨②ややよい ▩④わからない

図34 老人ホームのイメージ(男性)

表38 老人ホームのイメージ（女性）

ホームのイメージ	人 数	%
よ い	49	20.6
ややよい	48	20.2
悪 い	13	5.5
わからない	117	49.2
そ の 他	8	3.4
不 明	3	1.3
計	238	100



□①よい ▨③悪い ▩⑤他 ▤⑥不明
 ▨②ややよい ▩④わからない

図35 老人ホームのイメージ(女性)

老人ホームについては、よく分らないが半数を占め、まだ、関心がないようである。しかし、よい69人（19%）が、悪い29人（8%）の2倍の値を占めていることは注目に値する。

老人ホームは、昔の「養老院」や、「親を捨てる」というイメージから脱け出すのに、長い年月を要したが、ようやく、「生活介護の場」としての理解を得つつあるようである。これまでは、絶対的に病院の方に希望が多かったのだが、自分の被介護時の住まい、にも示したように、病院より老人ホームが優位を占めている。決して恵まれていない条件の下で、介護の理念に基く「生活介護」の場として、老人ホームの努力が認識されてきたのはよいことではあるが、今後は、この意識の変化に対応できるよう、量、質ともに充実して行く必要がある。特に介護の質は、施設によって大きな差があるので、介護職員の数を増加するなど、格差を埋めるような施策が必要である。

性別によるイメージの違いは、ともに「わからない」が最大ではあるが、女性の方が5ポイント程度高い。さらに、「よい」が男子18人（15.5%）であるのに、女性は49人（20.6%）と、女性の方が多い。「ややよい」という回答は24人（20.7%）と48人（20.2%）とほとんど同じであるので、「悪い」における男性15人（12.9%）、女性13人（5.3%）と考え合わせると、老人ホームに対する女性の関心が高く、自分の「終の住居」として考えている人が多いことがわかる。これは、これまでの一般的な傾向と一致する。

2) 具体的に訪問したことがあるか

実際に老人ホームを訪問見学した人は、109人（30%）であり、今後訪問してみたいと思っている人は130人（36.1%）と、約1/3の人がすでに見学し、かなり関心を持っている。

3) どんな老人ホームなら入ってもよいか

上記の問に関しては、いろいろの回答が帰って来ている。

「自宅と変わらない生活ができる、プライバシーが守られている、自分の自由にできる」と答えた人に、「個室がある」を加えると54人（17.6%）となり、個室や自分らしい暮らしを望んでいるのがわかる。

また、介護職員（寮母を含む）の質がよいことを望む人が27人（8.8%）、「人間関係が豊か」を望む人が45人（14.7%）あり、介護職員の質と人間関係を重視していることも読み取れる。入りたくないと回答した人は、48人（15.7%）で、それ程多くはない。費用が安いことを条件にしている人も16人（5.2%）あり介護保険における利用料の課題は、ここにも存在する。

こんなホームなら入ってもよい

設備と待遇 83人 (27.1%)		人間関係が豊か 45人 (14.7%)	
設備がよい	16	いろいろな人に出会える（バラエティが豊	1
新しい（きれいなところ1を含む）	3	かである1）	
個室がある	11	人間関係がよく穏やかに暮せる	20
環境がよい（田舎らしい1、清潔2、静か	20	良い仲間、友人がいる（ふれあい3、人と	13
である2を含む）		の交流1）	
入浴がいつでもできる	2	介護職員が良い	27人 (8.8%)
待遇がよい	1	（しっかりした技術2、人格を尊重してく	
家から近い（知っている人が訪ねてくれる	12	れる1、親切3、心が豊か1、頼れる1、	
2）		やさしい10、信頼できる1、すてき1）	
夫婦で入れる	1	費用が安い（無料1）	16人 (5.2%)
評判がよい	2	入りたくない	48人 (15.7%)
良い所であれば	9	その他	6人 (2.0%)
医療システムと連携がある（医師が常駐1）	3	ケア・ハウスがよい	1
最期まで看てもらえる	1	今入っているこのホームがよい	1
自宅と変わらない、プライバシー・		子供に迷惑をかけたくないので少し位はが	1
自主性が保てる 43人 (14.1%)		まんする	
自宅と変わらない生活ができる（アットホームな5、家族的2、こじんまり1）	19	世話さえしてくれればよい	1
プライバシーが守れる（個人の権利を大切にしてくれる1）	6	できないことを手助けしてくれるだけでよい	1
自由である（押しつけられない2、干渉されない1、自分に適した2、自分のしたいことができる6）	17	ぜい沢であるに越したことはない	1
自分の望む条件が揃っている	1	わからない	30人 (9.8%)
雰囲気がよい 83人 (27.1%)		意味不明	2人 (0.7%)
毎日が充実している	3	合 計	332
親切でやさしい	12	（回答者総数	306人）
思いやりがある	2	%は、回答者に対するパーセンテージである。	
面倒見がよい	4		
安心して暮せる	4		
幸せに暮せる	1		
サービスがよい（適切なケア1、質の高いケア1）	4		
和気あいあい	2		
ちゃんとした介護	2		
楽しい	25		
住み易い	6		
趣味が活かせる	1		

VI. どのように呼ばれたいか

高齢者を、おじいさん、おばあさんという呼び方をするのは、高齢者にとって望ましくないことは、既に、充分認識されている。しかし、まだ一般的には、かなり簡単に使用されている。本学の学生についても同様で、まず最初に、改めてもらいたいと考えている。回答者に、どのように呼ばれたいかを調査した。結果を表39、図36に示す。

表39 どのように呼ばれたいか

呼 ば れ 方	人 数	%
京都太郎さん	32	8.9
太 郎 さん	85	23.6
京 都 さん	131	36.4
おじいさん	38	10.6
おじいちゃん	60	16.7
ニックネーム	20	5.6
そ の 他	17	4.7
不 明	3	0.8
計	386	107.3

その他の内容	ちゃんをつける	1
	フルネームにさん	1
	親しみやすい呼び方	1
	時に応じて	1
	何でも良い	1

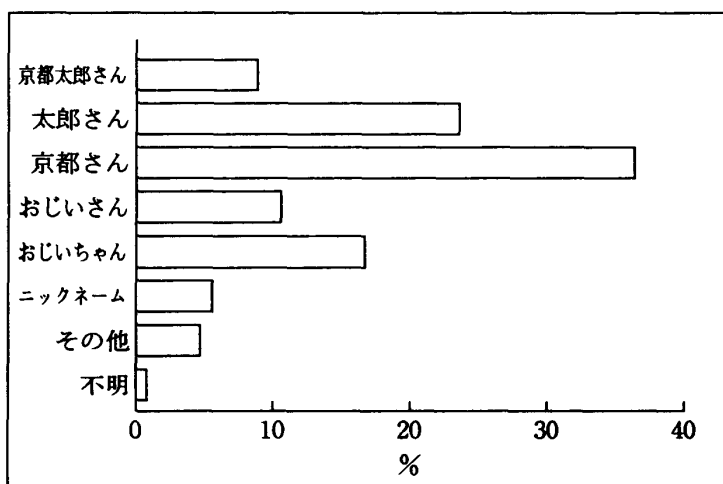


図36 どのように呼ばれたいか

姓に“さん”をつけるのが一番好まれるのは予想通りだが、おじいちゃん（おばあちゃん）60人（15.5%）がかなり多く、おじいさん（おばあさん）38人（9.8%）と併せると98人（25.4%）となり、高齢者自身には、あまり抵抗はないようである。

VII. 質問者(学生)が介護福祉士になることをどのように思うか

学生には、自分が介護福祉士になることをきちんと告げ、そのために、いろいろ教えて下さい、と頼むように指導する。介護福祉士という資格を知っている人は少ないと思えるが、おおよそ、好意的に受け止めてもらったようで、励ましや親愛の言葉をいただいて、学生達も嬉しかったようだ。

介護福祉士になることへの意見

一般	忠告	
今から必要な仕事だ	介護技術を落さないように	39 1
時代が必要としている（4）	根気がいるよ	1
高齢者がふえるのだから高齢者社会となっ	難しい仕事だ	1
て必要とされる	苦勞が多いよ	2
良い仕事だ	看護婦さんより大変かも知れない	193 1
すばらしい（9）	他の資格もいっしょにとったら	1
役に立つ（3）	在宅で介護する人の力になってあげて	1
皆のために（1）	人間を大切に	1
世の中のために（1）	老人をよい目で見える人が少ないが、そうい	1
自分もやっている（1）	う人になって	
人の世話をするので（1）	ディサービスを利用しているけど、ありが	1
結構なこと	たいね	6
老人として嬉しい	やる気次第だ	2 1
ありがたことだ		4
偉いね		5
頼もしい介護福祉士になって		1
励まし	その他	
がんばってね	これからの社会は若い人に支えてもらわな	67 1
必要な仕事だから（5）	いと	
大変だが（18）	君達に任せるより仕方がない	1
社会に貢献して（2）	したいのなら、したらよい	1
有意義（1）	なったらよい	1
しっかり勉強して（2）	特に介護福祉士を望まない	1
頼りにしているから（1）	どんな仕事かよくわからない	1
まだ足りないのだから（2）	害を与えるのでは？	1
苦勞が多いけれど（2）	これからは男女の区別はないから	1
やりがいがあるよ		1
よい介護福祉士になって		2
君ならよい介護福祉士になれる		
礼儀正しいから（1）		
明るいから（1）		
君に適している（1）		
あんたが介護福祉士になって		2
私を世話して下さい		

VIII. アンケートをとった学生の感想

学生達の感想は、まだ一回生の半ばなので、未熟で素朴だが、いろいろ驚きがあって有意義である。その一部を拾って以下に示す。

○気持ちよく、まじめに、丁寧に回答してもらえた。

- ・暑いときなのに、懸命に、快く話してくれた。
- ・1人暮らしで、少し淋しそうだったが、やさしく、丁寧に答えてくれた。
- ・脳梗塞で、話しにくいのに、やさしく話してくれた。
- ・たくさん話してくれて、話を先へ進めにくいほどだったが、こちらも嬉しく聞いた。
- ・元教師で話しやすかった。

○生き方に感銘を受けた。

- ・生き甲斐や、今やりたいことをもっていて、福祉のこともいろいろ考えていた。
- ・趣味をいろいろもっていて、しっかりしていた。
- ・品があり、礼儀正しく、しゃきしゃきしていた。みならいたい。
- ・今もバリバリ仕事をしている。すごい人と思った。
- ・編み物が趣味で、きれいに仕上げたセーターを見せてくれた。

○高齢者への認識を改めた。

- ・戦時中に子育てをして生き抜いてきたから、芯の強い人だと感じた。
- ・考え方が固くて驚いた。施設のこと等を理解してもらうには、時間がかかりそう。
- ・農業等をやっているお年寄り、やはり元気だなと思った。
- ・老人ホームを嫌っていて、昔ながらの思想の持ち主と思えた。

○話をするのが嬉しそうで、話相手になってあげることの重要性がわかった。

- ・帰り際に、いろいろ話してくれて嬉しかった、ぜひまた、遊びに来てといわれた。
- ・嬉しそうに話してくれた。笑顔で答えてくれた。
- ・回答だけに終らず、いろいろ話してくれた。
- ・少しボケているということだったが、インタビューのときは、とてもハキハキしていた。
- ・おつれあいの生前の思い出が楽しそうだった。
- ・人との交流が大切と感じた。

○話を聞けてよかった。

- ・自分の家族から聞き取ったのだが、よい話をいろいろ初めて聞く機会になった。
- ・ふだん、じっくり話したことがない人と話せて、打ち解けられた。
- ・また、別の話を聞きたい。

- ・男性と女性とでは、全く意見が違うのだと思った。
- 今昔の環境条件等の違いが分った。
 - ・外で働くことが昔はできなかったのだと、改めて知った。
 - ・昔は、養蚕、農業そのうえ洋裁までして大変だと思った。
 - ・楽しいことより、辛いことが多かったのだなと思った。
- 経験者の苦労が参考になり、介護の大変さがよくわかった。
 - ・施設で働いていた立場での意見が聞けてよかった。
 - ・病院の介助員14年の経験から、相手に心で接することの大切さを強調された。
 - ・サービスがあまりなかった頃に8年間も介護をされて、大変だったのだなと思った。
 - ・介護がどれだけ大変かよくわかった。
- インタビューの進め方について知ることができた。
 - ・自分が高齢になってこういう質問をうけたら、と考えながら質問した。
 - ・はじめは緊張したが、徐々に慣れてきた。
 - ・緊張したが、相手を緊張させないよう、リラックスムードづくりが大切と思った。
- こちらが励まされた。
 - ・介護は家族にしてほしいが、介護を目指す若者がいるのを喜んでくれた。
 - ・福祉にむいているといわれた。
 - ・昔の話が聞けて嬉しかった、がんばってといわれた。

おわりに

学生が、主として、それぞれの出身地でインタビューした結果である。統計としては不備な点が多いが、彼等が、この質問紙を通して高齢者と話し合い、その現状と生活の歴史の一部に触れたこと、その重さの幾分かを感じ取ったこと、おおむね力不足ながら、たがいに好意的に面談できたことを示している。

今回は、できずに終わったが、女性が働くことについての、（受けた支援と、自分が行った援助、どのような援助が必要か等）について、さらに、居住形態、性別と家庭内での役割等についても、分析してみたいと考えている。

高齢の人にお話を聴く

H12.7.30～9.30 実施

調査員 学籍番号

氏名

まず、訪ねた高齢者に学生証を見せ、京都短期大学・家政科・生活福祉専攻の学生である事を自己紹介する。将来、介護福祉士になれる予定であること、介護実習に行く前にお元気な高齢の人に面接して、お話を聴かせていただきたい、と許可を得る。聞いた内容を自分がメモをする。笑顔で、ほがらかに、尊敬の思いで、ゆっくり聴き、用紙に記入する。

- 1) 失礼ですが、お幾つですか？
 ①60歳まで ②60～65歳 ③65～74歳 ④75歳以上
- 2) 出身地は？(都道府県で書く) ()
- 3) 性別 ①男性 ②女性
- 4) 引っ越しのご経験は お有りですか？
 いくつの頃に、どこへ、——なんで？
 ()
 どこが、ご自分にとって一番良かったですか？ ——どうして？
 ()
 今ここに住んでどうですか？
 ()
- 5) 今お仕事はありますか
 ①有り ②無し
 今までにされたお仕事は パートですか？ 専業ですか？ 家業でしょうか？
 ①パート ②専業(ボーナスを貰った) ③家業 ④その他
 その仕事を選んだ理由は？
 ()
 どんな仕事が一番楽しかったですか？
 ()
 女の人が今、仕事を持って働いていることは よいと思いますか？
 ①よいと思う ②よいと思わない ——どうして？
 ()
 ご家族の中で女の人が働きに出るために 何か手助けをされましたか？
 ()
 ご自分が働きに出るとき、何か手助けをしてもらいましたか？
 ()
 女の人が働くためには どんなことが必要だと思いますか？
 例えば、誰か子供を預かってくれる人が必要とか、他には？
 ()
- 6) 今、体調はいかがですか？
 ()
- 7) 何人でお暮らしでしょうか？ 一人住まい？ 夫婦のみ？ 他と同居ですか？
 ①一人住まい ②夫婦のみ ③他と同居
 現在の お住まいの形は 一戸建て？ 集合住宅？
 ①一戸建て ②集合住宅 ③その他 ()
 家で受け持っている役割は何ですか？
 ①食事の仕度 ②お掃除 ③風呂沸かし ④買い物 ⑤その他 ()
 その役割には生き甲斐がありますか？
 ()
 家事で得意なことは何ですか？
 ()

- 8) 趣味はお持ちですか？ それは何？
()
今までには どのような趣味をお持ちでしたか？ 若い頃は？
(若い頃)
(中年では)
今も続いているご趣味は？
()
出来なかったが、してみたいと思われることは？
()
これから、しようと思うことは？
()
趣味の会に入ろうと思われますか？
①はい ②いいえ ③他 ()
他人との交流は良いことと思われますか？
①はい ②いいえ ③他 ()
どのような交流の場を望まれますか？
①公開講座 ②趣味の会 ③福祉センター ④他 ()
- 9) 私は介護福祉士になろうとしているのですが、どのように思われますか
()
老人介護をされたことは お有りですか？
①はい ②いいえ ③他 ()
誰を ()
いつ頃 ()
特にしんどかったことは？
()
印象に残ったことは？
()
こんな制度があれば、助かったのに、と思うことは？
①入浴サービス ②外出時に看てくれる ③食事の準備 ④他 ()
もし、介護を受けねばならなくなった時、どこに住みたいですか？
①自宅 ②子供の家 ③病院 ④老人ホーム ⑤その他 ()
誰に、介護をしてほしいですか？
①つれあい(夫又妻) ②息子さん ③お嫁さん ④娘さん ⑤ヘルパーさん
⑥介護士さん ⑦看護婦さん ⑧他 ()
老人ホームのイメージは？
①よい ②ややよい ③悪い ④わからない ⑤他 ()
具体的に、見学や訪問をしたことがありますか？
①はい ②いいえ
チョット、訪問してみようと思いませんか？
①はい ②いいえ ③他 ()
どんな老人ホームなら入ってもよいと思われますか？
()
- 10) どのように、呼ばれたいですか？ 例えば姓が「京都」、名が「太郎」さんの場合
①姓名にさんを付ける 「京都太郎さん」
②名前にさんを付ける 「太郎さん」
③みょうじにさんを付ける 「京都さん」
④おじいさん (おばあさん) ⑤おじいちゃん (おばあちゃん)
⑥ニックネーム ⑦その他 ()
- 長い間、お邪魔をし、すみませんでした。ご協力ありがとうございました。
この面談に対する調査員の感想を記す
()